

## 人物紹介

## 岡 治 道

結核予防会結核研究所 岩井 和郎

明治24年広島生まれの岡治道先生は、海軍軍医大監であった父君と共に中学までを群馬県太田町で過ごし、第一高等学校から東京帝国大学を経て卒後同病理学教室に入局されたが、大正9年一時家業の医院を引き継がれた。しかし大正12年東大病理学教室に再入局され病理形態学的研究に従事、大正14年日本結核病学会での緒方知三郎教授の特別講演「結核初期変化群の研究」のデータ作成にあたられた。教室では結核の病理材料が入手し難かったため、東京市中野療養所の剖検を手伝いながら研究材料を貰って研究を遂行された。昭和2年同療養所に就任されたが、当時はX線写真の臨床利用が緒に就いた時代であった。

そこでまず屍体肺を生時同様の吸気の状態に固定する方法として、股静脈からのフォルマリン液注入固定法を案出され、取り出された固定肺を1cm程度の薄い切片として、各断面の病巣、気管支・血管などを硝子面に描写し、それをパラフィン紙に写しとったものを重ねて透視することで、気管支・血管の走行や病巣の立体像を浮き彫りにし、それを生前のX線写真と対比することでどの位置のどの病変がどのように陰影として現れるかの研究を開始された。さらに正常気管支・血管の立体的構造を知るために、気管支または血管内にウッド合金を注入した後肺を溶解させて気管支・血管の模型を作製され、その成果を学会に報告された。この結核病変とX線所見との対比研究は、その後隈部英雄先生によって継承され精力的に続けられ、また正常肺の解剖は戦後山下英秋先生に引き継がれその大成をみている。

昭和11年、岡先生は東大病理学教室講師と海軍軍医学校嘱託にもなられ、やがて病理学的視点にたつ我が国最初のX線所見による肺結核病型分類、通称岡分類を作成し、昭和18年に発表された。この岡分類は、その後肺結核病型分類として広く用いられ、戦後の全国結核実態調査でもこれにより肺結核症例の分類が行われた。分類作成の裏話として、まず多くの肺結核症例のX線所見をスケッチした紙を床の上に広げ、似たような所見ごとにグループ分けしたうえで、病理所見を念頭においた分類を作成したとされる。その後の隈部英雄先生が作られた



結核病学会分類は結核患者の治療・管理を目的にしたもので現在も用いられているが、両分類は全く異なる目的と分類原理で作られたものと言える。

岡先生は昭和16年結核予防会結核研究所研究部長、昭和21年7月同所長に就任されたが、間もなく東京大学病理学教室から請われて同教室教授に就任され、昭和27年定年退職まで戦後の困難な時期の教室の運営にあたられた。その後は国鉄保健管理室に招かれ、また厚生省の結核予防審議会委員、第1回から第4回までの結核実態調査協議会委員長、結核療法研究協議会委員長など、多くの重要な公的役職の任を果たされた。昭和53年2月脳出血のため亡くなられ、従四位、勲二等瑞宝章を贈られた。

岡治道先生の足跡を振り返ると、戦前の日本の医学ことに病理学ではほとんどドイツから学んでいて、あくまでも「学理的」であることが多かったのに対して、その基盤に立ちながら岡先生のそれはあくまで「実証的」であったことが際立った特徴であった。病理形態学から結

核研究を始められたこともあって、自分の目で対象を観察したうえで考えを進めることを信条としておられたのが、生涯変わらない学問にたいする態度であったと思われる。

筆者が結核研究所に大学卒業後間もなく奉職した時に、医局会で岡先生の話聞いて度肝を抜かれたことがある。「君たち、教科書に書いてあることはみんな嘘です。あんなものを信用してはいけません。文献に書いてあることもすべてが事実と思ったらとんでもない間違いです」という言葉、大学時代ひたすら教科書を暗記して国家試験を受けてきた入局早々の弱輩にとって、それは驚天動地の訓話だった。岡先生らしく逆説的表現でご自分の研究信条を我々に伝えた言葉だと思われるが、それは今でも強く筆者の耳の奥に残っている言葉である。

それと共に、「山はそこにあるから登るのだ」という

姿勢ももたれ、結核研究の重鎮でありつつも結核以外の呼吸器疾患の研究にも関心をもたれ、慢性職業的疾患である塵肺をX線所見の面から追究され、結核に共通した組織像を呈し病因不明のサルコイドーシス臨時疫学研究班(厚生省)の班長もされた。また肺好酸球性肉芽腫症でも、日本の第1例となった症例の組織所見について我々に多くの示唆を与えて下さった。先生は組織であれX線所見であれ、必ず葉書大に切った画用紙にスケッチされ、それを書き終わった後と帰宅後とに必ず取り出して眺めて、記憶に残そうとされていたことも思い出される。

生涯を通して変わらなかったそのevidence-based medicineの姿勢と、その豪放で強烈な個性とは、今も多くの人の記憶に残っていると思われる。